東北の文化芸術関係者向けシンポジウム

芸術銀河

NETWORK Japan（協力）

地域と交わるアーティスト・イン・レジデンス

アーティストが地域に滞在すると、
そこに何が生まれるのか。
東北各地のアーティスト・イン・レジデンス
実践者とともに、その可能性を考えます。

日　時　2027年1月12日（火）
13：15～15：30（12：45開場予定）

会　場　宮城県庁１階　101会議室
（仙台市青葉区本町3-8-1）
※公共交通機関でお越しください。

参加費　無料・要申込
https://logoform.jp/form/GQGB/1897710

申込QRはこちら↓

パネリスト	パネリスト	パネリスト	コメンテーター	モデレーター
				
髙田　彩 ビルドフルーガス／本多工房 統括ディレクター	坂田　雄平 宮古市民文化会館 プロデューサー兼 社会共創文化室長	森　健太郎 katsurao creators commons 事業統括・ディレクター	梶原　千恵 宮城教育大学 教育学部准教授	菅野　幸子 宮城県地域文化コーディネーター

主催　みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会
共催　宮城県／公益財団法人宮城県文化振興財団
協力　AIR NETWORK JAPAN

【開催のねらい】
　アーティストたちが地域に滞在し、住民との交流やその土地の文化に触れながら多彩な創作活動を行うことによって、地域の新たな魅力や価値、可能性を引き出す「アーティスト・イン・レジデンス（AIR）」が、近年、東北各地でも盛んになっています。
　本シンポジウムでは、AIRにより、地域に何が生まれて何をもたらしているか、またアーティストの創作活動にどのような影響が生まれるのか考えるとともに、地域とアーティストが「交わる」ことの可能性について、東北各地の実践者を迎えて話し合います。

※宮城県では、令和７年度から実施する「アートを通じた地域協働支援事業」及び「地域文化サポート事業」においてAIRを支援しています。

【スケジュール】
12：45～　受付
13：15　開会挨拶・趣旨説明
13：20　登壇者によるAIR事例紹介
14：20　パネルディスカッション
15：00　参加者との質疑応答
15：20　終了
15：20～15：30　交流タイム

◆ 特にこんな方におすすめです ◆
✓ アートによる地域づくりに関心がある方
✓ アーティスト・イン・レジデンスを学びたい方
✓ 文化政策やまちづくりに携わっている方
✓ 地域と文化芸術の新しい関係を考えたい方
✓ 東北のアートプロジェクトを知りたい方

【登壇者プロフィール】



髙田　彩
　1980年宮城県生まれ。2006年にビルドフルーガスを始動・ビルドスペースを開廊し、地域文化に根ざした企画運営や芸術家支援を国内外で展開。2014年より塩竈市杉村惇美術館統括、2023年からシェアアトリエ「本多工房」を運営。



坂田　雄平
　NPO法人いわてアートサポートセンターにて宮古市民文化会館副館長や社会共創文化室長を務め、劇場運営や教育普及・文化観光を担当する。桜美林大学、地域創造、北九州芸術劇場での舞台芸術事業等を経て現職。



森　健太郎
　2021年より、福島県葛尾村でアーティストの滞在制作などを企画・運営。2026年より、青森県と福島県の２拠点で活動。地域の暮らしや文化と芸術をつなぎ、人と地域の関係が育まれる場づくりに取り組む。



梶原　千恵
　宮城教育大学准教授。専門は美術教育学、アートマネジメント。東日本大震災後の東北のアートプロジェクトの調査、視覚障害者の鑑賞ツールの開発などを行う。単著『災害伝承とアートプロジェクト』（水曜社）



菅野　幸子
　宮城県出身。独立行政法人国際交流基金に勤務するとともに、仙台市をはじめ各地の自治体の文化芸術政策の委員会に委員として参加する。2025年度から、宮城県の地域文化コーディネーターに就任。

【問い合わせ先】
みやぎ県民文化創造の祭典
実行委員会事務局
◆ 仙台市青葉区本町3-8-1
◆ 宮城県環境生活部消費・生活文化課内
◆ TEL　022-211-2527
（平日9:00~17:00）
◆ E-mail
geijutuginga@pref.miyagi.lg.jp